

教職の魅力発信と教員の養成及び育成に向けた取組について

( 答申 )

令和5年2月9日

教員養成の質向上に関する諮問会議

## 1. はじめに

福岡教育大学は、「有為な教育者を養成し、文化の進展に寄与すること」を目的に定め、社会から求められる教育人材を養成し、地域の教育の発展に貢献することを自らの使命として、これまで教員の養成及び育成に関する機能の向上に取り組み、地域の学校教員の質の向上に取り組んできた。

一方、急激な社会情勢の変化を受け、我が国の学校現場を巡る状況は、複雑化・多様化した課題を抱えており、これらの課題に柔軟に対応し、地域の教育の中核を担う教員の養成と育成が求められる。

これらを受けて、令和4年度福岡教育大学教員養成の質向上に関する諮問会議は、令和4年11月、福岡教育大学長から、教職を志望する優れた人材の確保のために求められる教職の魅力の発信について、教職への高い意欲と基礎的な能力を持った人材の養成と優れた資質・能力を有する現職教員の育成について、の2点の諮問事項を受けた。

諮問会議では、諮問会議の下に具体的な検討を行う専門委員会と合わせ計3回にわたり、福岡教育大学の第4期中期目標・中期計画（計画期間：令和4年度～令和9年度）に示された各取組について、検討や評価を行うとともに、中央教育審議会をはじめとした、教員養成及び育成に関する国の政策動向、全国の教員採用試験の状況を踏まえた議論を行った。

「教育は人なり」という。今回の答申を踏まえた本学の取組の進展により、有為な教育者の育成に寄与し、地域の学校教育全体の質の向上とともに、「令和の日本型学校教育」の実現を期待するものである。

## 2. 教職を志望する優れた人材の確保のために求められる教職の魅力の発信について

### (1) 福岡教育大学の取組状況について

福岡教育大学では、単なる受験生の確保や、教員採用試験における採用倍率という数値の増減だけに注目するのではなく、持続的な人材確保という視点に立ち、「教員という職業の魅力」をいかに高め、教職を志す者を着実に確保していくために、教職の魅力発信することを計画している（中期計画 No. 1）。

コロナ禍におけるオンライン授業の普及など、近年、教師と児童・生徒との関わり方に変化が生じていることから、今後、教職を志す主なきっかけの一つと考えられる「恩師の影響」により、教員を志望する者が減少する可能性がある。そのような中で、教職の魅力を組織的に発信することは、時機を得た取組であり大いに期待するところである。

しかし、教職の魅力発信するという取組は、大学が単独で取り組むだけではなく、学校現場におけるキャリア教育を通じて、教職の魅力児童・生徒に伝えることなど、大学と教育関係者の双方が連携した取組が求められる。

### (2) 教職の魅力の発信に関する効果的な取組について

### 「教育に携わることの価値」の発信

#### 《学生募集段階における発信》

学生募集段階で活用される大学のパンフレット等は、多くの受験生が手にするものであることから、単に学生生活や各課程の教育内容を紹介するに留まらず、教育に携わることの価値や子どもたちを育てることの重要性等、教職を目指すための理念について伝えることが重要である。そのため、学生募集段階において発信する情報の内容について検討いただきたい。

#### 《学生の学びを通じた魅力の情報発信》

教員養成課程においては、教職の重要性を自覚することと、教師としての使命感を涵養する理念及び哲学を身につけることが求められる。

そのような自覚と使命感を持った学生が、授業及び実習等で得た知識や経験について、個人の体験等を踏まえて日常的に情報発信することは、福岡教育大学の魅力を発信することだけに留まらず、教職を志す者に向けて教職の魅力を伝えることにも繋がると考えられることから、学生の学びの体験に基づく情報発信方法について検討いただきたい。

#### 《学生の志望動機の把握》

学生募集段階から一貫した情報を発信する一方で、入学者の志望動機を詳細に把握することも重要である。入学時において実施するアンケート等において、学生が何をきっかけに教職を志したのかを正確に把握及び分析し、必要な施策を実行いただきたい。

#### 《学生のキャリア意識の向上》

政府の様々な調査等により、若年者の就業意識は、ワーク・ライフ・バランスを重視し効率よく仕事をするを望む傾向や、転職に対して肯定的に捉える傾向がある。そのため、学生の教職に対するキャリア意識の更なる向上に向けて、例えば、学校現場で働く教員から、直接やりがいや生きがいなどを聞く場を正課または正課外において設けることや、進路指導などのキャリアプランの形成の際に、学生のライフプランニングの指導や教員の福利厚生等について説明する機会を設けるなど検討いただきたい。

### (3) 教職の魅力を発信するために求められる大学と関係機関との連携について

#### 「教職の魅力の伝え方」における連携

教職の魅力を児童・生徒たちに伝えることにおいて、日々の学びの場である学校現場は重要な役割を担う。そのため、将来の教員の担い手となる子どもたちに教員自身が教職の魅力を伝えることに加え、大学進学を進路を選択する段階の高校生においては、キャリア教育の中で、小・中学生と接し、学校現場を経験する機会を得ることが必要ではないかと考える。

しかしながら、現状では、教員の多くは日々の業務に追われており、学校現場だ

だけでは容易に対応ができるものではない。

そのような中で、大学は教育委員会等と連携し、ホームページ等において教職について適切で魅力的な情報を届ける役割を担うことができると考える。例えば、以下のようなことが考えられる。

・大学のホームページにおいて、「触れる・調べる」段階である小・中学校の児童・生徒たちに向けて、「先生とはどのような仕事なのか」、「教育とは何か」といったテーマで、調べ学習等で活用できる分かりやすいコンテンツを作成し、公開する。

・学校現場で働く教員が自身の体験談を語り、教職の魅力を発信する動画コンテンツを作成し、公開することなどが考えられる。公立の学校現場や教育委員会と連携し、「先生になろうと思ったきっかけ」、「先生になってよかったこと」、「子供たちへ伝えたいこと」等を教員の担い手となる子供たちやその保護者へ向けて発信する機会が必要である。

### 3. 教職への高い意欲と基礎的な能力を持った人材の養成と資質・能力を有する現職教員の育成について

#### (1) 福岡教育大学の取組状況について

教員養成及び教育の質の向上における地域社会への貢献を図ることとし、教員養成段階における福岡県内の自治体のニーズに基づいた取組や、現職教員向けの各種研修事業の実施など、福岡県内の教育委員会と連携し、教員養成及び教育の質の向上に取り組むこととしている（中期計画 No. 1）。

また、学士課程では、令和5年度より学位プログラムと主専攻、副専攻制を導入し、学校現場の需要に即した人材を養成することとし、専門職学位課程においては、特別支援教育に関する新たなカリキュラムの構築を検討している（中期計画 No. 4、No. 7）。さらに、学生ボランティア活動と、サービス・ラーニングの観点を取り入れた授業を継続し、教員として求められる資質・能力の育成及び社会性を高める教育の実践に取り組むこととしている（中期計画 No. 3）。

教員養成においては、学士課程段階において教員としての使命感や教育実践の経験をいかにして積むかが重要であり、令和5年度からの学位プログラムによる新たな教育に期待したい。

教員研修においては、日ごろから「学びたい」と考えている、多くの教員の要望に応えることが期待される。

#### (2) 教職への高い意欲や優れた指導技術を有している人材の養成において、大学に期待する取組について

##### 「令和の日本型学校教育」を担う教員養成カリキュラム

「令和の日本型学校教育」を担う教員の人材像は、子供自らの関心に基づき、先端技術を駆使して、子供同士や企業、地域など、多様な人々と協働しながら探究する学びを

促すファシリテーター的能力を有した教員である。このような人材を育成するために、多様な子供一人一人に寄り添ったきめ細かな指導力を備えうる実践力に力点を置いたダイバーシティと子供の権利、教育データ利活用などの先導的・革新的な教員養成カリキュラムを開発、実践・実証することが期待される。

また、志ある優れた人材が教職を目指すために、学部と教職大学院との連携・接続の強化による入職ルートの複線化・多様化の促進が求められる。例えば、教職大学院進学コースを設けて学部4年生における教職大学院の開講科目の先取り履修を可能にしたり、附属学校教員育成コースを設けて即戦力となる教員の養成、採用、研修を一体化したり、地元教育委員会と連携して十分な時間をかけて高度な実践力を確実に修得させて採用に接続させたりするなど、入口から出口までのキャリアパスを支える仕組みを構築する。

加えて、多様な子供への理解・対応力の育成や、多様な人々との協働には、教育実習や教育実践など様々な経験が必要であるが、学生全員にそのような機会を提供することは現実的には困難であることから、ICT企業や現実の先端教室と連携し、メタバースによるバーチャルスクールを構築し、様々なバックグラウンドを持った子供や多様な人々とのかかわりをシミュレーションできる教材を開発し、学生の経験を拡張することが期待される。この教材は、学生だけでなく、現職教員研修も活用できるようにし、事例やフィードバックを収集し、教材に反映することにより、最新の事例が体験できる仕組みを構築することが望まれる。

#### 教師としての「使命感」を醸成する教育実習の在り方

教師としての「使命感」を醸成するには、実際の教育現場での児童・生徒との出会いにおいて、教育に携わることの喜びや重要性を実感することが大切である。そこで、学生に子供と向き合うことの喜び、楽しさ重要性を感得させるべく、これまでの附属学校における教育実習の在り方について検討いただきたい。

#### 教育実践の重要性

現在、学校現場では教員の大量採用により、若手教員が増加している。即戦力として期待しているところだが、実際は難しい場面も多い。そのような中で、教員として採用された直後から即戦力としての活躍できるように、学生には、教員養成段階において、多くの教育実践を経験させていただきたい。

そのうえで、教育実習の機会に加えて、学生ボランティア活動において学校現場を経験する機会は非常に重要であり、さらなる活性化に向けた方策を検討するなど、充実が望まれる。

また、令和7年度に福岡教育大学の敷地内に特別支援学校が開校されることから、多くの学生が、障害を有した児童・生徒と触れ合う機会を設けることができるようにしていただきたい。

なお、教育実習や学生ボランティア活動等にあたり、失敗の中から学ぶことも多

い。そのため、人材育成の観点から失敗を叱責するのではなく、その失敗からの学びの重要性の理解を促す学生指導体制についても検討いただきたい。

#### 附属学校との交流人事

附属学校の副校長は、交流人事により公立学校の校長が務めている。しかし、現在は、公立学校に副校長職が設けられているため、附属学校の副校長職を降格ととらえる誤解が生じており、今後は交流人事に支障をきたすことが懸念される。そこで、他大学の附属学校のように副校長職を廃止し、校長として配置していただきたい。このことにより、校長が附属学校での教員や教育実習生に係る人材育成についてマネジメント力をなお一層発揮できると考える。なお、現在、大学教授が務める校長を総括校長、又は理事長として配置してはどうかと考える。

- (3) キャリアステージに応じて求められる資質・能力及び今日的な教育課題に対応した高度な知識や技能を有する現職教員の育成において、大学に期待する取組について「学びたい教員」のニーズに沿ったコンテンツの提供

多くの教員は、機会があれば学びたいと考えていることから、例えば、福岡教育大学において、オンデマンド化に対応した研修教材を開発することで、学びたい時に、学びたい場所で学ぶ機会を提供することができるのではないかと。これにより、多様な学びの機会が生まれ、教育現場における校内研修等で活用することができるのではないかと。

なお、教育委員会との協議を要するが、福岡県等が作成する教員育成指標と連動したコンピテンシーベースの教員研修プログラムを構築した上で、前述のオンデマンド学習教材を含むeラーニング研修と集合研修のベストミックスによる効果的なプログラムとし、教職大学院における授業科目群と統合した仕組として、これらの学びの履歴を研修の一環として蓄積することについて、検討できるのではないかと。

また、大学のホームページ等において、大学が実施する教員研修に関する情報提供を積極的に行うことも検討いただきたい。

#### 「現職教員のリカレント教育」という観点

教職大学院は、一定の教職経験を理論的に意味づけ、今後の教育実践を見る視座をしっかりと身に着けるために学び直す場であることが望ましい。そのため、蓄積した教育実践の理論的な裏付けや新たな指導方法等の学びの充実に向けた取組を検討いただきたい。

また、附属学校で教育活動に従事する教員に対して、一定の条件を満たした場合に教職大学院の単位を認定するなど、附属学校を活用した取組を検討いただきたい。